
23<水球陣>東日本リーグ第1戦

H27.3.1 対新潟産業大学 @慶應大学日吉プール

新産 4 1 5 1 計11

東大 1 1 2 1 計5

得点者：浪間(4)、池亀(1)

東日本リーグ A2 ブロック初戦の相手は新潟産業大学。格上の相手ではあるが、冬場の練習で培ってきた実力がどこまで通用するかを確かめるには相手に不足はない。夏の学生リーグに向けての課題を見つけることも、この大会の一つの目的である。

第一ピリオド

先制点は新潟産業大学。東大のパスミスを見逃さず一気にカウンターをかけ得点する。一方の東大は主将・浪間が退水を誘発すると自らシュートを決め同点とする。しかし再びパスミスからのカウンターを決められすぐに勝ち越される。その後もパスミスやマークミスなど、自分たちのミスでピンチを招き二失点。このピリオドで相手に許した得点はすべてカウンターによるものだった。

第二ピリオド

このピリオドも序盤からカウンターを出されるもキーパー・疋田の好セーブもあり得点を許さない。東大も相手の強いプレスに攻めあぐねるが、ピリオド中盤に2年・池亀が華麗なループシュートを決め会場を沸かせる。さらに石田がキーパーとの一対一のチャンスを作るも決めきれず、逆にカウンターから失点してしまう。終盤には藤目、梶原とシュートチャンスはあったが得点には至らず、前半を三点差で折り返す。

第三ピリオド

このピリオド先制して2点差としたい東大だったが、フリースローシュートで先制を許す。直後に退水のチャンスで再び浪間が得点するが、相手の強いプレスからのカウンターについていけず流れをつかむことができない。結局このピリオド、5失点の厳しい展開となった。

第四ピリオド

勝つためには点を取るしかない東大。しかし試合序盤から続く厳しいプレスを崩すことができずいい形をつくることすらできない。対する新潟産業大学もこのピリオドはシュートが決まらず両者無得点のままタイマーが進んでいく。試合時間残り二分を切ったところでこのピリオドの均衡が破れる。またも新潟産業大学がフリースローシュートを決め 7 点差に。このまま引き下がるわけにはいかない東大の主将・浪間がラスト 10 秒でペナルティースローのチャンスをつくり一矢報いるが、そのまま試合は終了した。

序盤から次々とカウンターを出されて得点される苦しい展開。試合途中でのディフェンスの修正もできないままに圧倒された。しかしオフェンスではこれまでの練習の成果が垣間見える場面もあり、夏までにディフェンスに磨きをかければ、現在東大より格上のチームとも十分に戦えるという印象を受けた試合だった。監督を務めてくださった下東さん、会場で応援してくださった吉田さん、小坂さん、轟さん、中野さん、有吉さん、只野さん、桐生さん、ありがとうございました。

(文責 山田直人)
